



## 【先週 12月30日～1月5日の外食の出来事】

### ■ 壱番屋/3～11月、人件費増で営業利益 7.9%減

壱番屋の2019年2月期第3四半期の連結決算は、売上高374億2400万円(前年同期比1.6%増)、営業利益33億7900万円(7.9%減)、経常利益35億5500万円(6.3%減)、純利益23億2700万円(7.9%減)となった。

### ■ 11月の外食売上高、前年比101.7%と27ヶ月連続で前年を上回る

11月は、土曜日が1日少ない曜日まわりであったが、暖かい日が多かったことや、週末の天候に恵まれたことなどから客足堅調、売上は101.1%と27ヶ月連続して前年を上回った。

### ■ 富士そば、国内運営会社7社を統合 シンジケートローンなど46億円融資枠確保

立ち食い蕎麦「名代富士そば」を展開するダイタンフード株式会社が、株式会社みずほ銀行をアレンジャーとする計9金融機関との間で総額46億3900万円のシンジケートローンなどを組成をしたと発表した。

### ■ ハイデ日高、2%減益 3～11月単独営業、人件費膨らむ

ラーメン店「日高屋」を展開するハイデ日高が26日発表した2018年3～11月期の単独決算は、営業利益が前年同期比2%減の36億円だった。人件費が膨らみ収益を圧迫した。店舗の光熱費増加も響いた。

### ■ 幸楽苑、FC契約を締結し焼肉ファストフード店「焼肉ライク」を展開

幸楽苑は「焼肉ライク」を展開するダイニングイノベーションとフランチャイズ契約を締結したと発表。また、より多くの人に「ファスト焼肉」を楽しんでもらうために「焼肉ライク」の郊外モデルを開発していく共同プロジェクトを発足する。

### ■ 串カツ田中、盗撮疑惑でFCを解約。ファミリー客を裏切らないガバナンスを。

串カツ田中が、FC加盟店である株式会社H&Aの運営する「串カツ田中」の新横浜店、希望ヶ丘店、上大岡店、菊名店で盗撮問題が発生したことにより、H&Aに対して当該4店舗の営業を停止しFC契約を解約した。

### ■ 日本サブウェイ、メニューに糖質量表示 1月から

サブウェイは1月から、サンドイッチのメニューに糖質量の表示を始める。健康志向の消費者が増えており、糖質量を購入のきっかけにする傾向が高まっていることに対応。標準的な商品であれば1個あたり、30～40グラムになる。

### ■ 1月～3月外食産業景気予測 客単価上昇が鈍る ↑ 日経

前年から続いてきた客単価の上昇が鈍りつつある。消費者の節約志向は根強く、割引キャンペーンも増えている。各社は単価引き上げと客数増を両立させるため、料理の値下げや、量を増減させるといったメニューに知恵を絞る。

### ■ ワンダーテーブル、全ブランドでプラ製ストローを全廃し年7万本削減

ワンダーテーブルは、「ロウリーズ・ザ・プライムリブ」など含む全ブランド店舗にてプラスチック製の使い捨てストローの使用を1月1日より順次廃止する。同社が1年間に提供するプラスチック製ストローは、年間7万本。